

1 学校運営の中期目標

基本理念「誰も置き去りにしない」(国連・持続開発のための 2030 アジェンダ)

モットー「可能性を拓き、人を育てる 榎本小学校」

学校目標「立ち向かい、乗り越える力を育成する」

現状と課題 (○…成果 ●…課題)

【学力の向上】「すべての子にわかる授業づくり」

○「全国学力・学習状況調査」の結果の、国語 A「書くこと」では、全国を上回った。算数 A の無解答率も減少しつつある。

●「学力向上」は、「授業力向上」と表裏の関係にある。故に、大規模校である本校にとって、多様な子どもの思いや発想を生かしながら、まとめ高めていく授業、すなわち、“すべての子にわかる授業づくり”が、喫緊の課題である。

【道徳心・社会性の育成】「人は人とのかかわりの中で成長する」

○生活指導の対応件数は全体的に減少している。27 年度から、「副校長本格実施校」として、管理職 3 人体制で教育活動を進めている。教頭が以前より学級担任との連携が密に行われるようになったことが大きな要因である。

人との違いを認め、互いに尊重し合い、高め合う心情を育てる。

「暴力」「不登校」については 27 年度、対応すべき事象はなかった。大規模校であるにもかかわらず、保健室対応児童も「0」である。

「えのもとの森」を‘安らぎ・憩いの場’に整備・活用していることにより、児童の情操面が大いに養われ、心が安定している。一昨年度より実施している、東北・陸前高田との交流も、ますます充実している。

●異学年児童同士のふれあいを、さらに深める取組を図るとともに、すすんであいさつできるように指導を工夫する。

【健康・体力の保持増進】「心、学力をささえる健康・体力」

○「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果、男女とも「握力」「上体起こし」の 2 項については、全国を大きく上回った。また、昨年度大きく下回った「シャトルラン」は、全国と僅差にまで迫ることができた。

「朝食を食べて登校する」は「あてはまらない」「まったくあてはまらない」は約 1 パーセントまで減少した。

●保健室対応については、防げるけがも多くあり、体力づくり、運動能力・運動習慣とも深く関わりがあると考えられる。28 年度は、健康・体力の増進が急務である。

【教職員の資質向上】「教職員にとっての“立ち向かい、乗り越える力”」

○学校アンケートの「学校は楽しい」の「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」が、保護者 97%、児童 88%で、昨年度より大きくアップした。特に、児童は 23 ポイント上昇した。また、「授業の内容がわかる」でも、(保)91%、(児)85%と、どちらも昨年度より上昇した。特に、保護者は 30 ポイントアップした。

●学校目標“「立ち向かい、乗り越える力」を育成する”に迫るために、児童とともに、教職員もこの理念を体現して、日々の教育活動に生かしていく。

【視点 学力の向上】「すべての子にわかる授業づくり」

“無答率を下げることは、各教科の各領域の正答率を高めることが大前提である”という基本的な考え方に立って、「すべての子にわかる授業づくり」のために、以下の目標を設定した。

＜国語＞

- ①「平成 24 年度全国学力・学習状況調査」（以後、「学テ」）結果で明らかになった、「話すこと・聞くこと」（A問題）正答率を「28 年度学テ」で、全校・市平均を上回る 90%にまで高める。また、「読むこと」（B問題）の正答率を「28 年度学テ」で、全校・市平均を上回る 80%までに高める。（ポイント上昇率は、1 年間で約 10%と設定）（カリキュラム改革関連）
- ②「24 年度学テ・児童質問紙」50.51 番の「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」を、80%に高める。ちなみに、「24 年度学テ」の 50.51 番の合計は、62%と 60%。（ポイント上昇率は、1 年間で約 10%と設定）（カリキュラム改革関連）
- ③「学級文庫」の蔵書数は、27 年度には 100 冊以上（一人平均 3 冊以上）に増やしたが、今後は、授業での活用を図っていく。（マネジメント改革関連）
- ④図書館ボランティアの人数が、24 年度 20 名おられる。28 年度には 50 名にしたい。（年間 10 名ずつの増加をする）（カリキュラム改革・サポート改革関連）

＜算数＞

- ①「24 年度学テ」で、A・B問題共に低い正答率であった「数と計算」領域を、「28 年度学テ」で、共に 80%にまで高める。（ポイント上昇率は、1 年間で約 10%と設定）（カリキュラム改革関連）
- ②「24 年度学テ・児童質問紙」56.58 番の「あてはまる」を、「28 年度学テ」で、それぞれ、50%、60%に高める。ちなみに、「24 年度学テ」の結果は、29%、38%である。（ポイント上昇率は、1 年間で約 10%と設定）（カリキュラム改革関連）
- ③「24 年度学テ・児童質問紙」64.65 番の「あてはまる」を、「28 年度学テ」で、それぞれ、60%、80%に高める。ちなみに、「24 年度学テ」の結果は、33%と 44%である。（ポイント上昇率は、1 年間で約 10%と設定）（カリキュラム改革関連）

＜理科＞

- ①「24 年度学テ」で、低い正答率であった「地球」（47.6%）を、今後の「学テ」で 70%に高める。（ポイント上昇率は、1 年間で約 10%と設定）好結果であった「生命」の数値もさらに高める。（カリキュラム改革関連）
- ②「24 年度学テ・児童質問紙」72 番（34.2%）75 番（18.9%）78 番（42.3%）を、それぞれ、55%、40%、60%に高める。（カリキュラム改革関連）

＜授業のユニバーサルデザイン＞

大規模校だからこそ、多くの児童の多様な思いや発想をくみ取りながら、ひとつの方向へ、まとめ高めていく授業づくりが、喫緊の課題である。そのために、「授業のユニバーサルデザイン」という視点で、授業を再構築していく。

より多くの児童にとって、“わかる・できる”授業となるように、授業力向上にむけて、研究・研鑽を深めていく。

【視点 道徳心・社会性の育成】「人は人とのかかわりの中で成長する」

“「学校・家庭・地域」総がかりの関係性（インクルーシブ）の中で、子どもは育つ”という基本的な考え方、いわば、「人は人とのかかわりの中で成長する」以下の目標を設定した。

- ①「24 年度学テ・児童質問紙」の結果より、28～36 番の「あてはまる」を、それぞれ、1 年間で約 10%の上昇、と設定）（カリキュラム改革・学校サポート改革関連）
- ②「24 年度アンケート」の結果、「私にはいいところがある」の「よくあてはまる」（低…39%、高…7%）「学校のきまりや約束をまもっている」の「よくあてはまる」（低…30%、高…16%）を、毎年、10 ポイントずつ増加させる。（カリキュラム改革・学校サポート改革関連）
- ③本校の「24 年度いじめアンケート」（以下、「いじめアンケート」）の「仲間はずれにされる」「お金をとられる」「メールや携帯電話で嫌なことを言われる」が、ごく少数ある。28 年度の「いじめアンケート」でも、「0」を目指す。（カリキュラム改革・学校サポート改革関連）
- ④生活指導上の対応件数が、24 年度は「ほぼ毎日 5～10 件」であった。この件数を、28 年度には、「0」にする。（カリキュラム改革・学校サポート改革関連）
- ⑤「生徒指導上の諸問題に関する調査」項目の「暴力」「いじめ」「不登校」を、28 年度でも、「すべて 0」にする。（カリキュラム改革・学校サポート改革関連）
- ⑥けが等での保健室対応件数が、24 年度は「毎日約 30 件」に上った。この件数を、28 年度には、「毎日、数件」に減らす。（年間、10 件ずつ減らす。）（カリキュラム改革・学校サポート改革関連）
- ⑦地域・近隣学校園・東北地方（陸前高田）と連携・絆を深め、「えのもとの森」の活用を通して社会貢献の精神（命を思う心情）を育成する。（カリキュラム・サポート関連）

【視点 健康・体力の保持増進】「心、学力をささえる健康・体力」

“自らの健康・体力に関心をもち、保持増進に努める子の育成”という基本的な考えにたって、以下の目標を設定した。

- ①「24 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（以後、「体テ」）で、男子は 8 種目中 5 種目が、女子は 8 種目中 4 種目が、全国・市の平均を下回っていた。28 年度の「体テ」には、男女ともに、全国・市の平均を上回るようにする。（カリキュラム改革・学校サポート改革関連）
- ②「24 年度アンケート」の「朝食を食べて登校している」の「あてはまらない」「まったくあてはまらない」が、「低…5%、高…3%」を、28 年度には、「低…0%、高…0%」にする。（カリキュラム改革・学校サポート改革関連）

【視点 教職員の資質向上】「教職員にとっての“立ち向かい、乗り越える力”」

- ①「24 年度学校アンケート」の設問「授業がわかる」の結果で、「よくあてはまる」「あてはまる」が、「保護者…95%、児童…95%」にする。（カリキュラム改革関連）
- ②生活指導上の対応件数が、24 年度は「ほぼ毎日 5～10 件」であった。この件数を、28 年度には、「0」を目指す。（カリキュラム改革・学校サポート改革関連）
- ③「28 年度授業アンケート」で、「学校は楽しい」の項目について、「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と回答する保護者・児童の割合を、全学年で 90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた28年度目標

【視点 学力の向上】「すべての子にわかる授業づくり」

＜国語＞

- ① 「平成24年度学テ」結果で明らかになった、「話すこと・聞くこと」(A問題)正答率を「27年度学テ」で、全校・市平均を上回る80%にまで高める。また、「読むこと」(B問題)の正答率を「28年度学テ」で全校・市平均を上回る60%までに高める。(カリキュラム改革関連)
- ② 24年度学テ・児童質問紙「国語の勉強は好きですか」「国語の授業の内容はよくわかりますか」の項目において、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」を、70%に高める。(カリキュラム改革関連)
- ③ 「24年度アンケート」では、家で読書している数値が低く、「学級文庫」の蔵書数gが100冊以上になり、今後は、授業での活用図っていく。(マネジメント改革関連)
- ④ 20名の図書館ボランティアの人数を、28年度には40名に増員できるように、保護者への呼びかけを図る。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)

＜算数＞

- ① 「24年度学テ」で、A・B問題共に低い正答率であった「数と計算」領域を、「28年度学テ」で、共に70%にまで高める。(カリキュラム改革関連)
- ② 24年度学テ・児童質問紙「算数の勉強は好きですか」「算数の授業の内容はよくわかりますか」の項目において「あてはまる」を、「28年度学テ」で、それぞれ、40%、50%に高める。(カリキュラム改革関連)
- ③ 24年度学テ・児童質問紙「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」「算数に授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の項目において「あてはまる」を、「28年度学テ」で、それぞれ、50%に高める。(カリキュラム改革関連)

＜理科＞

- ① 「24年度学テ・児童質問紙」72番(34.2%)75番(18.9%)78番(42.3%)を、それぞれ、45%、30%、50%に高める。(カリキュラム改革関連)
- ② 「えのもとの森」の活用を通して、高学年の「生命」「地球」領域の学習につなげるとともに、低学年から自然環境に対する興味・関心の芽生えをつくる。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】「人は人とのかかわりの中で成長する」

- ① 「24年度学テ・児童質問紙」の結果より、28～36番の「あてはまる」を、それぞれ、約10%上昇させる。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ② 「24年度アンケート」の結果、「私にはいいところがある」の「よくあてはまる」(低…39%、高…7%)「学校のきまりや約束をまもっている」の「よくあてはまる」(低…30%、高…16%)を、年々10ポイントずつ増加させる。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ③ 本校の「24年度いじめアンケート」の「仲間はずれにされる」「お金をとられる」「メールや携帯電話で嫌なことを言われる」が、ごく少数ある。28年度の「いじめアンケート」では、「0」を目指す。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ④ 活指導上の対応件数が、24年度は「ほぼ毎日5～10件」であった。この件数を、28年度には、「毎日数件」にする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ⑤ 「生徒指導上の諸問題に関する調査」項目の「暴力」「いじめ」「不登校」を、28年度には、「すべて0」にする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)

- ⑥けが等での保健室対応件数が、24 年度は「毎日約 30 件」に上った。この件数を、28 年度には、「毎日数件」に減らす。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ⑦人との違いを認め、互いに尊重しあい、高め合う心情を育てるとともに、国際理解・異文化理解を深める。
- ⑧児童・保護者・地域が「えの森」を活用して、東北地方（陸前高田）と絆を深めることにより、社会貢献の精神（命を思う心情）を育成する。(カリキュラム改革)

【視点 健康・体力の保持増進】「心、学力をささえる健康・体力」

- ①「24 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」で、男子は 8 種目中 5 種目が、女子は 8 種目中 4 種目が、全国・市の平均を下回っていたが、28 年度の「体テ」には、男女ともに、全国・市の平均を上回るようにする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ② 24 年度アンケート」の「朝食を食べて登校している」の「あてはまらない」「まったくあてはまらない」が、「低… 5 %、高… 3 %」を、28 年度には、「低… 0 %、高… 0 %」にする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)

【視点 教職員の資質向上】「教職員にとっての“立ち向かい、乗り越える力”」

- ①「24 年度学校アンケート」の設問「授業がわかる」の結果で、「よくあてはまる」が、「低…36%、高…20%」を、28 年度には、「低…50%、高…50%」にする。(カリキュラム改革関連)
- ②生活指導上の対応件数が、24 年度は「ほぼ毎日 5～10 件」であった。この件数を、28 年度には、「毎日数件」にする。(カリキュラム改革・学校サポート改革関連)
- ③「28 年度授業アンケート」で、「お子さまは、授業の内容がわかるようになっていきますか」の項目について、「そう思う」と回答する保護者の割合を、全学年で 60 %以上にする。

【視点 学力の向上】「すべての子にわかる授業づくり」

【視点 道徳心・社会性の育成】「人は人とのかかわりの中で成長する」

【視点 健康・体力の保持増進】「心、学力をささえる健康・体力」

【視点 教職員の資質向上】「教職員にとっての“立ち向かい、乗り越える力”」